

2017（平成 29）年 5 月 21 日～22 日、中華人民共和国 大連で「アカシア祭り」とその関連行事が開催され、全奏協から 14 名が参加した。千葉、東京、金沢、神戸、広島、徳島、福岡から集まった参加者、そして西安交通大学から徳島大学へ留学中の胡（フー）氏も加わった。彼は中国笛の奏者でもあり、国際大会で優勝経験がある。伝統楽器を通じての日中の交流を目指す今回の訪問で、彼が加わってくれた意義は大きく、以上で全奏協演奏団を構成し両国伝統楽器による演奏を披露した。

全国から集まったということもあり、事前の練習も 5 月初旬に 1 回行っただけだったが、すべての文化行事で大連の皆さんに大きな感動をあたえ、日中民間交流の役割を果たした。

（関連記事 2～3 面）



大連「アカシア祭り」の一環として開催されたジャパンデーでの演奏。（関連記事 2～3 面）

洗足学園音楽大学を会場に”第 5 回全国邦楽合奏フェス in 川崎”開催



▲メイン会場となる前田ホールの 360 度写真（2017 年 11 月川崎市湾の口の洗足学園大学）
写真中央は 360 度カメラで会場風景を撮影する立花茂生第 5 回全奏協合奏フェス実行委員長

2018 年 8 月 31 日～9 月 2 日に第 5 回全国邦楽合奏フェスティバル in 川崎が川崎市の洗足学園音楽大学で開催される。31 日はシルバーマウンテンでシンポジウムや洋楽邦楽を超えた一夜限りのコンサート「夏の終わり」などが、1 日は前田ホールで同大・現代邦楽研究所＆現代邦楽”考”スペシャル・ジョイントコンサートなどが開催される。2 日は前田ホールでメインイベントの「全国邦楽合奏コンサート」が予定されている。

また、演奏家、教師のための音楽作りなどの多彩なワークショップも開催される。

（関連記事 6 面）

第七回全奏協邦楽コンクール参加者募集 2018 年 8 月 12 日（日）に開催



2018（平成 30）年 8 月 12 日（日）寝屋川市立地域交流センター「アルカスホール」で、第 7 回全国邦楽合奏協会邦楽コンクールを開催します。

（詳細 6 面）

▲昨年度のコンクール（2017 年 8 月開催）の記念写真

主な記事

- 2～3 面…全奏協国際交流事業
中国大連アカシア祭り
- 4 面…和楽器体験教室（韓国釜山）
- 4 面…箏体験とミニコンサート事業（奈良）
- 5 面…第 6 回全奏協邦楽コンクール結果
- 6 面…第 7 回全奏協邦楽コンクール募集要項
- 6 面…第 5 回全国邦楽合奏フェス in 川崎概要

平成 30 年度 総会告知

開催日：2018 年 5 月 26 日（土）
時刻：13 時 30 分（予定）
場所：洗足学園音楽大学
〒213-8580 神奈川県川崎市高津区久本 2-3-1
（終了後交流会を予定しております）

日中国交正常化 45 周年という節目の 2017 年、全奏協の海外公演の一つとして、中国大連公演を行った。英崇夫理事の中国との交流による 2 回目の訪問公演で、在瀋陽日本国総領事館在大連領事館事務所との事前交渉でも、ご尽力を頂いた。

今回は大連市政府主催、上記領事館が同市観光局との共催で公式イベントに招聘された。メンバーは全国から各自大連に集合だ。空港送迎をはじめ、ホテル、移動バスの手配、中日友好協会主催の夕食会など、大変な好待遇だ。

今回の大連 5 公演のトップを切る大連市政府主催「第 28 回アカシア祭り開幕式」のため、舞台衣装で早朝ホテルをバスで出発。約 30 分で市郊外の海に面した会場の棒棰島景区海浜に到着した。外国の要人の接待にも使用される沖に小島を望むすばらしい眺めの海浜公園に特設ステージと、前列の来賓席、約 600 席の観客席が作られていた。

バスから楽器等を下ろす。他団体の出演者やスタッフに気を使い準備にかかる。ステージでの位置決め後、一同ステージから降ろされた。何かと思えば数匹の警察犬が楽器や袖に置いたカバーなどをチェック。麻薬や危険物対策だろうが、演奏前の楽器を調べられたのは初めてだ。

舞台監督さんの指示で、椅子や譜面台、マイクをセットするスタッフの動きも細かく決めての出入りの練習を 3 回くり返した。ダンスの出演者でもある優秀なスタッフたちのおかげで、本番も各自楽器を出し入れするだけで転換できた。

来賓は各国大使館の代表の他、日本からは長崎幸太郎衆議院議員、石塚英樹久



▲第 28 回アカシア祭り開幕式（5月21日 棒棰島景区海浜特設ステージで）

留米市長、大橋洋治全日空最高顧問（全日空は中国就航 30 周年）、古賀克己石川県日中友好協会会長など錚々たる要人が参列された。ご挨拶と開会宣言が終わると、無数の白い鳩が放たれ、派手な演出も中国らしいと空を見上げていた。

我々はロシアの子どもたちのバレエのあと、《さくらさくら》（川崎崎都夫編曲）を箏・十七弦・尺八・琵琶・打楽器・中国笛の編成で初日から参加の 8 名で演奏した。後で聞いて下さった方から「あの中でレベルの高い《さくら》を、邦楽器の演奏で聞いて本当に嬉しかった」との感想を伺って、日本代表としての務めを果たせて安堵した。

海外公演では、毎回予想できない場面

での臨機応変の対応が必要だが、この時の問題は「強い陽射し」だ。楽屋はもちろん、壁や日陰のない場所での待機、調弦の狂いに気を使わねばならなかった。

演奏は、前日にホテルで練習をさせて頂けたので、お互いの音が聞き辛いにもかかわらず、よい出来だったと思う。

何より、この場で邦楽を披露することで素晴らしい国際文化交流になった。準備して下さった領事館はじめ各位に感謝申し上げる。政治が難しい時こそ民間の文化交流、特にことばの不要な音楽による交流が大切であることを再認識した。

（大連公演団 釣谷真弓）

全国邦楽合奏協会大連公演への歩み 交流の流れ

2015 年 11 月に仕事で訪れた大連での会議のあと、在瀋陽日本国総領事館在大連領事事務所（大連領事事務所）に足を運んだのが始まりだ。副領事の渡會（わたらい）隼人氏と当時の所長の平川智雄氏に面会が叶い徳島邦楽集団および全国

邦楽合奏協会の韓国釜山との交流活動を紹介した。大連でもそのような機会が設けられないか打診したところ、了解との即答をいただき、帰国後、渡會氏とのやり取りが始まった。2016 年 3 月に開催されるジャパンプランドというイベントへの参加要請があり、「徳島邦楽集団とその仲間たち」7 名編成の参加

になった。また、大連市中日友好協会が交流演奏会を企画してくれて、邦楽、剣舞、詩吟など、日本の音楽文化を披露した。「一个国家の声音（一つの国の音のひびき）」の垂れ幕を背後に、心ゆくまで演奏を楽しむことができた。大連市の皆さんに大きな印象を与えた瞬間であった。今回の演奏会の経緯



2016 年 3 月 19 日 大型ショッピングモールワンダプラザ（万達広場＝大連市）でのイベント演奏（左）と翌日開催の大連市中日友好協会交流演奏会後の記念写真



今回の全奏協大連公演の話は 2017 年 1 月の状況問い合わせに対して、渡會氏はすでに私たちの公演を期待し、大連市の花、アカシアにちなんで、5 月に開催されるアカシア祭りの開幕式への出演を提案された。今年は日中国交正常化 45 周年だ。その意味でも大連領事事務所は私たちの大連公演に大きな期待を寄せた。

（3面に続く）



第28回アカシア祭り関連行事「ジャパンデー」で演奏やゲームを楽しむ市民
(5月22日 大連市街地の労働公園)

大連アカシア祭り関連、大連領事事務所主催のジャパンデーの演奏は、労働公園の池上特設ステージで2回行われた。労働公園は、市街地中心部に位置する市街地最大の公園で、その北には上野駅に似た大連駅がすぐ近くにある。多くの植栽があり、市民の憩いの場になっており、会場の池となった場所以外に、庭園、寺、遊園地などの施設がある。また、驚いたことに、地下にはショッピングセンターがあり、肉・魚などの生鮮食料品を扱っているようだ。ジャパンデー当日は、池の周辺に模擬店が設置され、日本の特産物の食料や衣類、日本酒、焼酎などが展示された。

演奏会場の池は、周囲に庭園が配置されるとともに、池の中心部にはイベントをする舞台が常設されている。階段状の客席が配置され、市民がリラックスしながらイベントを楽しめるスポットとなっていた。皆さん、ランプやゲームなどを持ち込んで楽しんでみた。

さて、ジャパンデーのイベントは、全奏協による邦楽の演奏以外に、地元のお茶の湯の会の皆さんによる茶道の実演、それから学生さんたちによる、よさこいソーラン節のパフォーマンスなどバライティに富んだイベントがプログラムされていた。

私たちの演奏は、当初楽器紹介と「子供のための組曲」を予定していたが、広い会場の特性勘

案の上、川崎絵都夫氏の編曲の「さくらさくら」を演奏することとした。「子供のための組曲」も、「さくらさくら」も、打楽器をはじめとする華やかな楽器編成の曲で大連の市民の皆様も喜んでいただけたと考えている。演奏は、日中および夜間の屋外演奏で、演奏者としてPA、日照による楽器のダメージやチューニングずれ、そして風や、華やかで眩しい照明光などの演奏上の問題など悩まし課題を克服しながらの演奏となった。例えば、日照に関しては、ゆたんやタオルなどによる養生、風で飛ばないようにバイнда(団長の英氏が、A3の楽譜がそのまま入るバイндаを用意)の準備など様々な工夫により対処を行った。写真(1面参照)は夜間の演奏時のもので、池上に浮かぶ舞台は、演奏時にはわからなかったが、涼しげでファンタスティックな雰囲気だったようだ。ちなみに、背景の庭園の写真のように見えるのは、大型モニタによる動画・静止画の映像で、中国のイベントでは常に使われる小道具だ。

さて、この夜の演奏の終了の30分後には、ホテルでの交流会演奏がセットされており、演奏者は大汗でバス移動。この話は、別の参加者の報告に期待したい。

(大連公演団 立花茂生)

(2面から) アカシア祭り開幕式、ジャパンデーについては他の記事にゆずる。

22日夜は大連市中日友好協会が交流演奏会の場を設けてくれた。その前に会場の中山大酒店での夕食晩餐会では素晴らしい料理と中日友好協会の皆さんとの音楽や交流の話で華やいだ時間を楽しんだ。また、交流演奏会後も大連の皆さんとの話は尽きず短い時間の中で本当に密な交流ができた。さらに大連のテレビ局の取材があり、その様子が大連ニュースで放送され私たちの大連訪問を多くの市民に知っていただいた。全ての公演が終わった翌日の23日には、渡會さんの案内で大連市の名所の散策、午後には旅順に足を運んで203高地から日露戦争を偲び、美味しい旅順料理を楽しんだ。

渡會氏からは中国に伝わる故事「有縁千里来相会、無縁対面不相識」を紹介。「縁あればたとえ千里離れていても知り

合いになり、縁なければたとえ目の前にいても知り合いにはなれない」という意味だ。一つの出会いを大事にするか、見過ごすかによって、その後の展開が異なる。機会を機敏にとらえ行動することで大きな国際交流が始まることを忘れてはならない。韓国はもとより中国とも日本は政治的にきしんでい

る。日中国交正常化45周年の年に大連を訪れて「政治は政治、我々は我々」と大連の人々は口をそろえて語った。

交流演奏会で司会を務めた大連領事事務所の高崎さんから中国語で次の内容のメッセージが届いた。「今回の演奏会は本当に素晴らしかった。邦楽の魅力をたっぷり味わうことができました。皆さんの演奏団がまた大連に来てくれること

を願っています」。

今回の大連訪問のため尽力していただいた大連領事事務所の皆さん、そして大連市中日友好協会の全洪秘書長、交流演奏会の場所を提供してくれた中山大酒店の李津総経理ほか全ての関係各位に心から感謝します。

(大連公演団団長 英 崇夫)



5月22日交流演奏会での記念写真

釜山日本人学校訪問

2017年12月13日(水) 全国邦楽合奏協会の2017年度事業の一つとして、本会会員6名が韓国の釜山日本人学校(長(おさ)信宏校長 児童生徒数27名)を訪ねし邦楽体験授業を行った。

釜山日本人学校は韓国釜山市広安里(グァンアンリ)の海岸そばに位置する小・中一貫校である。現在、児童、生徒数は世界に100校ほどの日本人学校がある中で、最少だ。したがって、科目によっては複式の授業もある。

体験授業実現までの経緯

2016年11月に徳島邦楽集団が交流している韓国釜山のオウルリムの演奏会に招待されたのを機会に、藤本理事長らと共に日本人学校を訪れ当時の西出校長先生と面談した。釜山で勉強している日本人の子どもたちには是非邦楽を聴かせたいと申し出をした結果、快く受け入れてくれて、2017年12月13日の訪問が決った。

メンバーは、箏、17絃、三味線、尺八の編成とした。授業の一環としての行事のため、全体の時間は45分。子供たちには是非日本の楽器を体験してほしいと考えて、演奏は15分間そして30分を楽器体験とした。

邦楽鑑賞

演奏曲は邦楽の趣にも触れてもらう意味で古典は「八千代獅子」から一部を、新曲は「春の海」から一部を演奏、併せて子供たちもよく知っている日本の四季をメドレーとする「春が来た」、

「夏の思い出」、「虫の声」、「雪」を選んだ。演奏会場となったのは体育館で、23名の児童生徒、校長先生をはじめすべての先生方が参観した。また、楽器体験では子どもたちと一緒に先生方も挑戦してくれた。

子どもたちには、楽器と演奏が間近に見られるように自由に楽器のわきに座ってもらった。それぞれの曲に対して簡単な曲目紹介をスライドで行った。本物の楽器を目の前にしたことで、箏や三味線、また尺八の音、さらに演奏に対して大変興味を持ってもらえた。

楽器演奏体験

続く体験授業では、箏2面、17絃1面、三味線1本そして塩ビ管の尺八20本を用意し、全員にそれぞれの楽器を体験してもらった。邦楽演奏を聞いたことのある子どもたちが半数ほどいたが、初めて邦楽に触れて楽器体験する様子は真剣そのもの。箏では「さくらさくら」を弾き、三味線は楽器と撥の構え方を教わり、難しい尺八にもみんな夢中になって挑戦した。

終了予定の時刻になってもなお楽器に向かう子どもたちの姿に、校長先生も時間の延長を認めてくれて1時間の体験授業を終えた。

邦楽体験授業の後、一人の女子がやってきて「ブダペストの日本人学校へも是非行ってください」。理由を聞くと釜山に来る前に両親とブダペストに滞在していたという。遠くの友達にも邦楽の楽しさや和楽器の面白さに触れさせてあげたいと思う少女のやさしさに心を打たれた。

最後に校庭で記念撮影をして学校を後にした。

(訪問団 英 崇夫、山上朋代)



和楽器体験授業で三味線を弾く児童・生徒
2017年12月13日 釜山日本人学校で

親子で楽しむ初めてのお箏 体験とミニコンサート
～関西元気文化圏参加事業～

2017年11月26日(日) 午後1時から4時まで奈良県磯城郡川西町の川西文化会館で奈良県教育委員会後援の「親子で楽しむ初めてのお箏 体験とミニコンサート」が全奏協から派遣された竹村さつき講師他3名の指導で開催された。

奈良新聞による事業の紹介や近隣小中学校にチラシ1800枚を配布依頼するなどした結果、奈良県内、大阪府から児童生徒12名保護者10名の合計22名が参加した。参加者のほとんどが

学校から配布されたチラシを見ての参加だ。

4名の講師紹介の後、ミニコンサートで「さんば(久石譲)」「箏のしらべ(長澤勝俊)」を演奏。続いて箏の各部の名称など

説明後、3チームに分れる。小学5年生以下の子どもチーム、小学6年生以上は大人チームとして、6人づつ2チームに分かれ練習を開始した。大人チームは「さくら」「かごめかごめ」「上を向いて歩こう」「きらきら星」を子どもチームは「チューリップ」などを練習し、両チームとも講師が伴奏をつけて発表に臨んだ。こどもチームが演奏した「あんたがたどこさ」の「さ」の箇所では、「りゃん」、「シュ」など箏独特の奏法を取り入れ楽しさを演出する工夫をした。大人チームでは「さく



発表に向けて、練習する子どもチーム(左)と大人チーム(2017年11月26日 奈良県川西町川西文化会館)

ら」は全員すぐに弾け、他の曲も大体弾けた。子どもチームでは小4生には少し簡単だったが、他の学年には、ちょうど良い教材だったと思う。参加者全員が「楽しかった」「また機会があれば弾いてみたい」と言っていた。(本事業講師

竹村さつき)

第6回全国邦楽合奏協会邦楽コンクール結果

2017年8月12日(土) 午前10時30分から寝屋川市立地域交流センターアルカスホールに【熟の部=60歳以上】(3組)、【達の部=59歳以下】

(17組うち合奏2組)、【萌(ほう)の部=小中学生】(8組)の全28組の参加を得て開催した。【熟の部】【萌の部】の最優秀金賞は該当なしだった。



【達の部】

《最優秀金賞》
尾松優希さん
「甦る五つの歌
(沢井忠夫)」



【萌の部】

《審査員奨励賞》
早瀬大和さん
「曼珠沙華
(沢井忠夫)」



【達の部】

《実行委員長賞》
小林真衣さん
「雲井獅子
(古典本曲)」



【萌の部】

《全奏協賞》
堀越美亜菜さん
「数え唄変奏曲
(宮城道雄作曲)」



【熟の部】

《全奏協賞》
林 英生さん
「一定
(杵屋正邦作曲)」

多くの方のご参加を！

今回は、28組の参加があり、それぞれの部門で思いのこもった演奏がなされました。

表彰式での受賞者の皆さんの晴れやかな笑顔が印象に残っています。特に最優秀賞の尾松優希さんは、2年前に右手首を切断するという大怪我から復帰して最優秀金賞を獲得

されました。審査では技術の高さと曲への思いを評価し全員一致で受賞が決定されました。

ここで、皆様にお伝えしたいことが一つあります。それは、尾松さんの受賞が「怪我」を考慮したものではないということです。「怪我」のことを知っていたのはコンクールの統括である私だけであり、審査員に怪我のことを伝えたのは、表彰式直前の舞台袖でした。その経緯や詳細は邦楽ジャーナル2017年12月号(Vol. 371)の記事をご参照ください。

コンクール出場者の演奏レベルが年々高くなり、担当する者としても嬉しい限りです。本コンクールは、予選のない、意欲のある演奏者が出場できる開かれたコンクールです。是非多くの皆様にご参加いただきたいと願っています。

(コンクール統括 麻植武志)



【達の部】

《全奏協賞》

「邦楽ソリスデン智世代」

前川智世さん 福田智久山さん(右)
「沓越(山本邦山作曲)」



【達の部】

《全奏協賞》

「ゆいあいみ」

近藤あい美さん 尼子結衣さん(右)
「打盤横槌(幾山検校作曲)」



【審査員】

石川憲弘(箏曲演奏家)
星田一山(尺八演奏家)
吉岡紘子(箏曲演奏家)
の各氏(五十音順)

藤本 玲(全奏協理事長)
前田智子(作曲家)



【達の部】で最優秀金賞を受賞した尾松優希さんの演奏

